

## 第22回北海道女子ユース(U-15)サッカー選手権大会 兼

### 第19回全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会北海道予選 報告書

大会日程：平成26年6月21日(土)～22日(日)

開催会場：芦別市なまこ山総合運動公園芝生広場(芦別市上芦別町6番地)

対象者：根室ラバーナ(U-15)

参加者：メンバー登録15名(内欠場1名) 監督・コーチ登録3名

試合：21日(土) トーナメント1回戦  
対 室蘭アイスバーズ 0 - 10 敗戦

試合詳細：室蘭アイスバーズ 戦

チームでボールを持つと、積極的な動きを見せるが比較的攻め急ぎとなり、選手間のお互いが準備のできていない中で、パスを受ける、パスコースを失う、相手チームのプレッシャーに負け、ボールを失うことがみられた。

ボールを失うと、アプローチ、戻りが遅い、カバーリングの甘さを突かれたプレイについてゆけないことが多くみられ、そこから得点を取られる状況となった。1対1の状況での対応や技術は負けてはいないが、相手の組織的なプレイやスペースを使われるプレイには判断が遅れがちとなり、後手後手の状況に陥る。

だが、チームモチベーションは得点意識を最後まで持ち続けていることは素晴らしい。

所感：このチームでの練習は2回。やはり試合ではチーム練習の不足を感じずにはいられない状況だったが、得点を取る意識は始終見られ積極的な動きも多く見られた。試合としては大敗ではありましたが、試合後の練習試合や食事の時も、チームメンバーで話し合いをしながら、自分たちなりにもっと強くそして何かを変えようとの取組みはチームの雰囲気としては負けて得るものがあったと思う。今後の練習で、チームメンバーをしっかりサポートできるよう改めて良い準備を心がけて指導にあたりたい。

監督より：「結果だけを見ると残念な結果ですが、間違いなく今後に繋がる遠征になったと思います。今大会の上位へ進出したチームの話を聞いたりプレーを見ると、普段中学校の部活に入らず、各女子チームでの練習が主でチームとしての完成度の違いが大きかったと感じます。根室の選手は個の技術に関しては、他のチームとさほど差は無いと思います。大会前の練習及び大会終了後に課題としてアドバイスしたのは下記のとおりです。

1) ボールの出し手と受け手のコンタクトが無く、ほぼすべてのボールが足元へのパスでした。ただ、これに関しては練習や大会でコーチングした結果、多少はスペースを狙う、もらうのイメージができてきたと思います。

2) トラップの重要性。意図の無いトラップが多く、上位チームだとDFの優先順位が出来ており、トラップぎわを狙われ奪われる場面が多く、トラップがうまくいっても自分が蹴れる状態になってからドリブルやパスの判断をするため、プレッシャーが早い相手に何もできませんでした。これについては、トラップ以前にルックアップが出来てない為、周囲の状況が確認できず、プレーが遅くなっていると思います。パスをもらう前にルックアップして常に周囲を見ておく（イメージとしては相手ゴールを見ると全体が見える）を事と、そこからトラップのボールをどこの位置に置くか。（前にスペースがあるならチャレンジ、スペースに走りこむ見方がいるなら1ステップ、2ステップで蹴れる位置）

大きくはこの2点をコーチングしてきました。特に2)と基礎的な部分は各チームでも出来る部分なので、今後の練習で意識して取り組むように指示を出しました。

試合後の夕食で、選手間で「こんどこんな練習をしよう」「こんな練習をして基礎を重点的にやる」など話していたのを聞いて、意気消沈するかと思いましたがモチベーションは上がってきてるのかなと思います。キャプテンと副キャプテンを中心に、良いチームになってきてるのかなと・・・」

まとめ：全道女子ユースフットサルの時同様、チームとして練習不足ではあるが、個々のパフォーマンスでは、他のチームに負けていない部分も多くありチーム練習が出来るのであれば、積極的に行うのがやはり望ましいのではないかと思う。

あと、グループディフェンス、チームディフェンスレベルと、チャンス作りを意識する駆け引きについてスキルアップが必要と感じる。

次回もこういったチーム意識の高まりが生まれる試合や大会出場を目指したい。

以上  
根室地区女子委員会 川口孝行